



在原神社本殿―天理市樅本町で



(住所) 天理市樅本町市場垣内
 (祭神) 阿保親王、在原業平
 (交通) JR樅本駅から徒歩約10分
 (例祭) 4月26日「業平祭」

(拝観) 自由
 (駐車場) なし
 (電話) なし

在原神社は天理市北部の樅本町に鎮座します。創建には諸説ありますが、880年5月28日に在原業平が病没したため、その邸を寺にして在原寺と号したと伝わります。後に神社も設けられ、江戸時代には、本堂、庫裏、楼門等があり、在原千軒と称せられるほどにぎ

在原神社

(天理市)



わいしましたが、明治元年の神仏分離令により在原

神社のみとなりました。ご祭神は、在原業平とその父である阿保親王(第五十一代平城天皇の第一皇子)です。皇統が嵯峨天皇に移ったため業平は826年に兄の行平らと共に臣籍降下し、在原姓を名乗ります。

その情熱的な作風の歌により「六歌仙」に名を連ね、時代を代表する歌の読み手となります。また業平は、日本最古の歌物語といわれた『伊勢物語』のモデルとも、作者であったとも伝わります。境内には、伊勢物語に登場する「筒井筒の井戸」や謡曲『焉』に歌

われた「夫婦竹」なども見え、文学に長けた業平を偲ぶことができます。毎年4月26日に例祭の「業平祭」が行われ、本殿前には祭神の阿保親王像と業平像が祭られ、美男の誉れ高い業平とのご対面がかないます。奇しくも来年2025年は、業平生誕1200年の特別な年を迎え「業平祭」もにぎわうことでしょう。(奈良まほろばソムリエの会員 西川年文)

業平邸跡に建立と伝承

(奈良まほろばソムリエの会員 西川年文)